



県医師会員 野地 秀義

(福島市・福島南循環器科病院)

白血病

白血病というと、洋の東西を問わず悲劇の題材に用いられ、最近でもNHK連続テレビ小説「スカーレット」でも主人公の息子さんが白血病になってしまいました。しかし、医学の進歩で白血病の治療法も向上し、希望は広がりつつあります。

まず、血液細胞と白血病のイメージを説明します。血液細胞は骨髓(骨の中)で、造血幹細胞から赤血球(酸素の運搬)、白血球(細菌、ウイルス、カビなどへの抵抗力)、血小板(止血)に分化・成熟します。白血病細胞は血液細胞ががん化して、一定の容積の骨髓で増加、充満し、正常の血液細胞が増加できずに少

治療進歩 希望広がる

なくなります。

その症状は、程度の差こそあれ、息切れや動悸(どうき)などの赤血球減少、感染症になりやすく、治りにくい状態の白血球減少、皮膚の内出血や大切な臓器への出血などの血小板減少の症状です。症状がなくとも、検診で血液細胞の数や性状の異常が見つかることもあります。

白血病には、急性と慢性に、さらにリンパ性と骨髄性に分けられます。ここでは大きく急性白血病(リンパ性、骨髄性の両方)、慢性骨髄性白血病、慢性リンパ性白血病に分けて説明します。一般的な白血病のイメージはこの急性白血病です。この病気では一カ月ほどの入院を何度も繰り返して、強い抗がん剤治療を行います。一時的には先に述べた症状が強くなり、輸血や抗生剤を使用しますが、一カ月ほどで症状は落ち着きます。一回目の治療で寛解(白血球細胞が極めて少なくなった状態)を目指し、治療するよう

に同様の抗がん剤治療を何度も繰り返して終了となります(地道な療法)。

一般に造血幹細胞移植(骨髄移植など)は、この地道な療法の中で、効果・副作用が最も強い治療で、「治癒」という病気としては理想的な状態を目指せますが、副作用が強く患者さんの状態により、行わない方が良くと判断されることがあります。慢性骨髄性白血病は「スカーレット」の登場人物のように以前は造血幹細胞移植が唯一の治療を得られる治療でしたが、現在は外来での内服治療(チロシンキナーゼ阻害薬)で治療・治癒に近い状態(内服継続)に至り、病気がない方と同じような生活が営めます。

慢性リンパ性白血病も効果的な新薬が多く開発されていますが、病気があまり悪くなければ治療しません。ただし、経過観察は必要なので定期受診はしてください。

どんな病気でも主人公は患者さんご自身、そして、そのご家族です。主治医の先生と一緒に強い気持ちをもって病気を相手にして、幸せに生活していただきたいと思っています。

(地道な療法)。

次回(5月4日)掲載

『福島民報に掲載されました』

掲載日:令和2年4月6日(月)

内容:日常のカルテ④ 白血病